

第2回 亶理町総合発展計画審議会 議事録

【開催概要】

日 時：令和7年1月28日（火）午後1時30分～午後3時30分

会 場：亶理町役場1階多目的スペース

委 員：

	団体／組織等・役職	氏 名	出欠
1	公立大学法人宮城大学 教授	郷 古 雅 春	
2	公立大学法人宮城大学 准教授	宮 崎 義 久	
3	亶理消防署 消防署長	吉 田 雅 之	
4	（代理出席）宮城県亶理警察署 次長	齋 藤 亮	
5	亶理町災害防止協議会 会長	千 石 勇	
6	亶理町女性防火クラブ連合会 会長	平 間 文 子	
7	亶理地区区長会 会長	小 林 博 明	
8	荒浜地区区長会 会長	渡 部 幸 造	
9	吉田地区区長会 副会長	安 住 博	
10	逢隈地区区長会 会長	高 野 治 夫	
11	亶理地区まちづくり協議会 会長	佐 藤 徳 美	
12	荒浜地区まちづくり協議会 会長	櫻 井 幸 次	
13	吉田西部地区まちづくり協議会 会長	鈴 木 達 朗	
14	吉田東部地区まちづくり協議会 会長	福 本 眞	
15	逢隈地区まちづくり協議会 会長	樋 口 一 志	
16	亶理町民生委員・児童委員協議会 会長	岡 崎 正 利	
17	亶理町シニアクラブ連合会 副会長	坂 本 盛 雄	
18	子ども・子育て支援審議会 会長	藤 本 由 紀 子	
19	亶理町子育て応援クラブ（吉田子育て応援クラブ） 会員	佐々木愛美	
20	亶理町社会福祉協議会 会長	陰 山 俊 明	
21	亶理郡医師会 会長	板 橋 敏 之	
22	亶理町食生活改善推進協議会 副会長	森 順 子	
23	亶理町農業委員会 会長	伊 藤 富 敏	
24	亶理土地改良区 理事長	日 下 正 博	
25	みやぎ亶理農業協同組合 代表理事組合長	大 堀 正 信	
26	みやぎ亶理農業協同組合女性部 部長	佐々木千賀子	
27	亶理町認定農業者連絡協議会 会長	森 基 弘	
28	亶理町農産加工推進協議会 副会長	安 住 郁 子	
29	宮城県漁業協同組合仙南支所（亶理） 運営委員長	菊 地 幹 彦	
30	宮城県漁業協同組合仙南支所（亶理） 水産加工研究会 会長	木 村 光 子	欠席

31	亶理ロータリークラブ 幹事	刈谷文俊	
32	亶理ライオンズクラブ 会長	黒崎敏郎	欠席
33	わたり創生会 理事	萩野志津江	
34	社団法人あぶくま青年会議所 副理事長	渡辺 涼	
35	亶理山元商工会 副会長	門澤俊夫	
36	亶理山元商工会女性部 部長	横尾裕子	
37	亶理山元商工会青年部 副部長	太田実穂	欠席
38	あらはま塾 事務長	佐藤和弘	
39	亶理町教育委員会 教育長職務代理者	富田栄子	
40	亶理町地域婦人団体連絡協議会 理事	大河原みつ子	
41	亶理町芸術文化協会 会長	富山剛久	
42	亶理町PTA 連絡協議会 会長	後藤永吉	
43	亶理町立荒浜小学校父母教師会 会長	佐藤早苗	
44	亶理町スポーツ振興審議会 会長	末木清一	
45	国際交流協会わたり 代表	渡邊愛子	欠席
46	一般公募	齋藤真奈美	
47	一般公募	籾山チャグラー祐聖	欠席
48	一般公募	涌井 栞	欠席
49	一般公募	青田さとみ	
50	一般公募	結城翔太	欠席
51	一般公募	村上美香子	
52	一般公募	吉田昌博	欠席
53	一般公募	山本美緒	

※53名中45名出席、出席者過半数のため会議は成立した。(条例第6条第2項関係)

事務局：

企画課 企画班長	平塚ひろ美
企画課 主幹	齋 義弘
企画課 主査	鈴木秀知

支援業者：

ランドブレイン株式会社仙台事務所 専門技術監	姜 守範
ランドブレイン株式会社仙台事務所 主任補	鈴木千春

配布資料：

【次第】

【資料1】次期総合発展計画策定に係る検討資料

【資料2】第6次互理町総合発展計画策定に関する施策動向調査について

【参考】広報わたり2月号抜粋

(以上)

議事概要

1. 開 会

○事務局平塚班長の進行で会議を開会し、出席者が半数を超えており審議会条例第6条第2項の規定により、会議が成立する旨を併せて報告した。

2. あいさつ

○郷古会長より、今日までは町の現状をつぶさに説明いただき、頭に入れていただく時間であり、次回が大事な議論をしていくと伺っている。総合発展計画は色々な分野に関わり、各々の分野に分かれても重なる問題も出てくる。部会を中心にしながら、建設的な議論を頂戴できればと思っている。宮城大学は県立大学で、本部が大和町にあり、事業構想学部と看護学部、食産業学部が太白区にある。食産業は農業に係る分野で、水産の先生や作物の先生や色々いる。事業構想も幅広く、交通や建築、社会学などが在籍している。また、私の専門は農業農村工学という分野で、特に水に関する研究も行っており、グリーンインフラや流域治水という言葉がある。大雨時の災害の防止や減災を行う部分もあり、川の範囲だけでやっていたが、現在は気候変動の時代で、土木の専門家以外も含めて、みんなで行うという考えに変わってきている。まさに、町の将来の動きを決めるのもみんなで行う時代になってきている。色々な分野からご参加いただいているが、みんなで作る計画ができれば良いなと思っている。

3. 委員の交代について

○事務局平塚企画班長より、互理町認定農業者連絡協議会会長の交代に伴い、互理町認定農業連絡協議会 森基弘氏が審議会委員に任命されたことを報告する。

4. 協議事項

1) 現況の再整理について【資料1】

○事務局鈴木主査より、資料1を用いて説明する。

2) 町民アンケート調査報告について【資料1】

3) 中学生アンケート調査結果及びワークショップ開催結果について【資料1】

○事務局鈴木主査より、資料1を用いて、協議事項2)/3)を合わせて説明する。

○千石委員：町民アンケート調査結果について、男女別・年代別のクロス集計が記載されているが、例えば30歳代の男性と女性のような形で、双方をクロスした結果をお示ししていただけないか。また、中学生アンケート調査結果について、学校別のクロス集計が記載されているが、こちらも男女別の結果を追加していただければと思う。

○郷古会長：事務局から返答はあるか。

○ランドブレイン（鈴木氏）：アンケートの集計について、性別や年齢別のクロス集計について、回答数等の状況によるが作成できないことはないため、事務局と相談の上、対応を検討させてい

ただきたい。

- 郷古会長：他に意見はあるか。
- 後藤委員：町民アンケート調査結果において、例えばP. 22やP. 23に地域活動とあるが、具体的な地域活動の例を示した上でアンケートを実施したのか。
- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：アンケート調査においては、自治会活動や地域行事、防災活動などを指しているという注釈をつけた上で実施しております。
- 郷古会長：地域行事を含めて、広い範囲で地域づくりという意味合いで取っているということになる。
- 郷古会長：他に意見はあるか。
- 福本委員：吉田東部地区は、典型的な少子高齢化の地区である。残念だが、将来的に人口が増える可能性が一番低い地区と思っている。地域活動について、担い手や後継者探しに苦労しており、現在支えているのは70歳代となっている。アンケート調査結果では、10歳代と50歳代が愛着を持っていないということが記載されているが、P. 18の居留意向をみると50歳代は81.7%となっている。50歳代は、愛着を感じていない傾向にあり、愛着はないが住み続けたいという矛盾した結果になっている。先ほど、転出転入者の件をお話ししたが、今後のまちづくりのキーとなる50歳代についてどのような解釈をしているのか、教えていただきたい。
- 事務局鈴木主査：ご質問、ご意見についてですが、アンケートは基礎データとして調査したものとなります。審議会は総合発展計画の策定に関する諮問機関であるので、アンケート結果についても各関係団体等の代表の立場での考えをお伺いしたいと考えております。
- 福本委員：50歳代に特化したアンケート調査を行うなど、考えていただきたい。
- 郷古会長：他に意見はあるか。
- 菊地委員：中学生アンケート調査については、将来のことを考えていただき良かったと思う。しかし、町民アンケート調査は調査期間が短いのではないか。回収数も511件となっており、この結果だけを見ると、浅いと思っている。先ほど50歳代の件もあったが、町民アンケート調査について、実施方法を変えて再度実施した方が良いのではないか。
- 事務局鈴木主査：回収期間については、LBと調整の上、一般的なアンケート調査の期間を設定した。方法についても、郵送とWEB回答を実施している。期間を長くしたからと言って回収数は増えないと考えており、本町では個別計画等のアンケート調査より、総合計画のような包括的なアンケート調査は回収率が低い傾向にあります。
- ランドブレイン（姜氏）：回収率が25.5%である点などについて補足をさせていただく。今回のように、郵送とWEB回答の組み合わせによる総合計画のアンケート調査では、一般的には約30%前後の回収率になっている。回収数の511件という結果については、統計学的な信頼があり、母数や回答者数が増えたとしても、回答傾向に変化は見られないという認識をしている。また、回収期間は週末を2回含めており、その程度入れておけば回収率は変わらないケースが多く、回収期間を過ぎても数件は戻ってきているが、長くしても回収は見込めなかったと考えている。
- 郷古会長：例えば、標本数は10歳代が14件、80歳以上が6件ということで、調査の限界はあるが、標本数を理解した上で、調査結果を見たほうが良いと考えている。
- 事務局鈴木主査：年代別の標本数を補足するために、中学生アンケート調査と中学生ワークショップを実施いたしました。

4) 町の将来像について【資料1】

- 事務局鈴木主査より、資料1を用いて説明する。
- 福本委員：資料のP. 40に、町の将来像について回答が多い順に記載されているが、P. 20に記載されている町の魅力については、自然環境が最も多く、ここでは2番目に入ると思う。3番目に、買い物の利便性を高める商業地整備や工業発展のための商工業の町とあるが、現状の亶理町の土地の使い方や空き地を見たときに、企業誘致を推進するにあたっては、スペースの問題があるのではないか。また、農林水産業に関する回答が10.6%と少ないのが残念。アンケートの結果とこの後の将来都市象で出てきているワードと異なっているのではないか。アンケート調査結果

の将来像と考えられる将来都市象にギャップがあるのではないか。

- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：P. 40は将来どうなってほしいかという内容を伺っており、P. 20は現時点での良いところを聞いている。自然環境等に関する言葉は現段階での互理町の良いところを挙げており、設問としてはリンクしていないと考えている。またP. 41について、今後の検討にあたり、参考までに記載しており、このまま進むわけではなくこの審議会で議論していただきたい。
- 福本委員：中学生ワークショップ結果にある現在の良さを維持向上させていくという部分とはリンクしており、現在の良さは自然環境で、今後も残していくということが前提だと思っており、農林水産業の住みわけが明確な町が必要だと考えている。引っ越してきた当初は、畑の真ん中に住宅があり、町が作っているのではなく、民間の不動産会社が開発したものであり、上下水道等のインフラが整っていない段階で開発を進めたため、まちづくりとしては行いにくくなっている。昔から住んでいる人と引っ越してきた人と考え方が異なり、行政区内でその考え方が混在しており、整理されていない町になっている。整理され、きれいな町になってほしい。住宅地や商工業や農林水産業が明確に住みわけされた町になってほしい。
- 郷古会長：都市計画やまちづくりの根幹にあたる部分をご指摘いただいたが、事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：ご指摘の通りであると考えます、あくまでアンケート調査結果は基礎データであり、審議会としての意見まとめた上で答申することになるので、このデータ等に基づき各分野から想いや意見を議論していただきたい。
- 郷古会長：他に意見はあるか。
- 富山委員：これから専門部会が行われるが、その部会でのみしか発言できないという形であれば、考えや総合的な形に関わっているということが見えなくなってしまうため、進め方について、部会を検討する際に整理してほしい。
- 事務局鈴木主査：ご指摘の通りだと思います。本日の資料は、前計画策定時の流れを参考にお示ししましたが、審議会と部会の役割を明確にしなければいけないと考えており、事務局より案をお示しするため、次回色々ご議論いただきたい。
- 門澤副会長：10年前にも審議会に任命され、部会を行ったが、委員の希望を取らずに部会を行ってしまったため、その辺りも考慮していただきたい。また、複数の部会に入りたいという意見もあったため、部会の構成に役立てていただきたい。
- 郷古会長：他に意見や質問はあるか。
- 大堀委員：P. 40の件で、買い物の利便性と商業発展は別々の選択肢にしたら、39.1%にならないと思う。例えば、常磐線では複数線化や常磐道の車線を増やすなど、経済や流通が動くということで、町が発展をするということがあっても良い。基幹産業は第一次産業だと思っており、そういう部分がここにはクローズアップされないため、もう少し検討した頂きたい。
- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局平塚班長：買い物の利便性を高める商業地整備や工業発展のために企業誘致を推進する商工業のまちという部分について、商業分野と工業分野を分けたほうが良かったのではないかといい意見も、庁内ではあった。次回からは、設問についても詳細な設定をしていきたい。
- 郷古会長：他に意見や質問はあるか。
- 青田委員：先ほど事務局から専門部会について、事務局で振り分けるという話があったが、一般公募の8名の活動範囲等は多岐に渡る。要望として、振り分ける前に、一般公募の方々と色々話し合った上で決めてほしい。
- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：部会の振り分けについては、意向調査は行いたいと考えているが、人数の分配等の兼ね合いもあるため、その辺りを鑑みながら進めていきたい。
- 郷古会長：一般公募の方は、希望を取った方が良いと思うが、一般公募の方以外は事務局で振り分け案を作成いただく形でどうか。
- 事務局鈴木主査：一般公募の方以外は、各種団体の代表ということで委嘱させていただいており、その分野に基づき、部会を振り分けるということになるため、一般公募の方は意向調査を実施さ

せていただきたいと考えます。

- 坂本委員：P. 40以降に町の将来像が記載されているが、将来都市象という言葉を使用している。亶理町の場合、都市という言葉ではなく、他の言葉が良いのではないか。また、産業分野別生産額が出ていたが、亶理町は第1次産業の町だという風に認識しており、産業分野別就労人口の推移を知りたかった。
- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：計画の策定にあたり、そういったこともこの審議会で議論していただきたい。今後、将来像に関する議論にあたっては議論をお願いしたい。また、産業別就労人口については、第1回資料のP. 16に記載しているため、ご確認いただきたい。
- 郷古会長：他に意見や質問はあるか。
- 福本委員：部会について、まちづくり協議会や区長会が5地区あり、同じ地区のメンバーが同じ部会に入ってもあまり意味がないと思っており、振り分けにあたっては留意してほしい。
- 事務局鈴木主査：ご意見を踏まえて、検討したい。

5) 施策動向調査の結果について【資料2】

- 事務局鈴木主査より、資料2を用いて説明する。
- 千石委員：完了している事業が少なく、進行中ということで、第5次計画と第6次計画が同じになってしまうのではないか。
- 郷古会長：事務局から返答はあるか。
- 事務局鈴木主査：完了した事業は単年度で完結しており、ほぼ進行中となっているが、継続して取り組まなければいけない施策が多いため、この結果になっている。
- 千石委員：第5次も進めながら、第6次も進めていくということになってしまうのか。
- 事務局平塚班長：第5次計画は来年度までの計画期間となっており、第6次から同じ内容を継続していくこともあるが、福祉関係や保健など、継続しなければいけないものもある。第5次計画は次年度で終わるが、第6次計画では継続していくことになるが、拡充するのか、縮小するのかなど、第5次計画と第6次計画を並行して取り組んでいくわけではない。
- 千石委員：第5次計画の進行中の事業は、次年度で完了するという理解で良いか。
- 事務局平塚班長：その理解で良い。
- 郷古会長：この資料は数字だけで示されているため、中身が分からないと定例的な事業や政策的な事業、第5次計画の目標を達成するために、第6次計画でも入れ込まなければいけないものもあるかもしれない。継続していくにしても内容を変えたり、予算付けを増やさなければいけない事業だったり、内容が動いてくるという理解で良いか。他に意見や質問はあるか。
- 菊地委員：例えば、総務課は事業数が17となっており、達成できた事業も17、継続する事業も17という関係はどのように理解したらよいか。
- 事務局平塚班長：現行計画で17の事業があり、全ての事業で達成しているが、第6次計画でも同じ形で継続していかなければいけないという記載内容となる。企画課についても、同じような形になっており、他の形になっている。総務課については、17の事業のすべてが第6次計画でも取り組んでいかなければいけない内容だということになります。
- 菊地委員：予定通り達成しているのに、継続するというつながりが理解できないため、書き方等については工夫してほしい。
- 郷古会長：例えば、17の事業がどのような事業なのかという具体的な内容と第6次計画においてどういう施策に紐づいているのかなどが見えてこないとあまり意味のある議論にならないかもしれない。

5. その他

- 事務局鈴木主査より、【第3回】亶理町総合発展計画審議会の予定（令和7年4月中旬）をお知らせする。

6. 閉会

○門澤副会長が閉会の挨拶を述べ、事務局平塚班長が閉会を宣言した。(午後 4 時 40 分)